

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200760		
法人名	社会医療法人 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の家		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町村受理日	令和7年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0170200760-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和7年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の思いに寄り添い、その人らしさを大切にしたいケアを目指し、日々努力している。
『一人一人の思いを大切にすること』『相手の立場に立って考える事』『相手の良い所を探す事』を基本に、入居者の言動を分析し、考える介護を目標としている。
昨年度より、ネパールからの特定技能実習生2名の受け入れ、今年度よりミャンマーからの技能実習生1名の受け入れを開始している。
感染症対策として定期的な換気・消毒・不織布マスクの使用等を継続しており、BCPの見直しやそれに基づいた研修とガウテンニックの練習など、予防だけでなく実際に感染者が発生したときに備えている。 法人内での委員会活動や研修会(対面・ZOOM)にもできるだけ参加しており、質の向上に努めている。
在宅診療所・管理栄養士・言語聴覚士・リハビリ職等と連携しながら安心して生活でき、また看取りまでしっかりと対応できる事業所を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすぎの子の家」はバス停から徒歩圏内である3階建ての建物で1階は保育園、2～3階に2ユニットで、利用者18名が共に生活をしている。運営母体は医療法人で、東区の総合病院を中心に、市内はもとより、近郊まで多方面に各種の事業展開をしており、医療と介護の協力、連携がなされている。事業所の活動である「ウエスの会」には家族、地域の方々と一緒に布を裁断したり、縫い合せたりするなど交流の場にもなっている。また、今年度は地域住民向けにグループホームの見学会を開催し地域とのつながりに努めている。職員は、日々のかかわりの中で、本人が発した言葉を個人記録(つぶやき欄)に記載し、本人の言葉を活かした日々のケアを充実させている。また、標語(NGワード)を掲げ、意識付けを図るなど、適切なケアにも努めており、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしさを大切にしたいケアを目指し、理念にある「ゆっくり・一緒に・楽しく・豊かに」の実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに理念の研修を実施している。理念の共有と理解を深める事が出来た。	基本理念の「ゆっくり・一緒に・楽しく・豊かに」を事業所内各所に掲示し、利用者や職員、家族等に向けて開示している。また、毎年、理念の研修を実施し、職員間で確認し理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ウェスの会を開催し、地域の方に参加していただいている。今年度は地域住民向けにグループホームの見学会を開催した。今後も継続していきたい。	地域住民の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。他事業所向けと地域住民に向けたグループホームの見学会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内のオレンジカフェで相談を受けたり、必要時にはほかの相談窓口へ繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	可能な限り町内会長・地域包括職員・地域の方に参加していただいている。議事録は職員に周知し、参加できなかったご家族には渡している。	会議は対面で、2か月ごとに開催し、事業所の運営や活動、利用者の状況、ヒヤリハットや事故報告、行事の内容、避難訓練など様々な課題や構成委員に役立つ情報などで意見交換を行い有意義な時間となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に電話やメールで連絡を取り合っている。	行政担当者とは、課題の内容に応じて、法人介護事業部と管理者が対応している。。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等を通して良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、法人介護事業部での委員会が開催されている。それとは別にホームでも2か月に1回委員会を開催し、議事録を作成・職員に周知している。研修も2回実施している。標語(NGワード)の取り組みも継続している。	法人主催の身体拘束適正化や虐待廃止に向けた委員会に参加の職員から内容の伝達と、事業所でも各委員会が開催され、適切な支援への正しい理解と周知徹底を図っている。また、不適切なケアに繋がらないように、4か月ごとに標語(NGワード)を事務所内の見えるところに掲示し、毎朝の申し送り時に職員間で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回、法人介護事業部での委員会が開催されている。議事録を作成・職員に周知している。研修も2回実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員によって理解度に差がある。権利擁護に関する研修を実施していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や契約時等に丁寧な説明を実施し、現状を正確に伝えるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺ったり、意見箱を設置して直接話せないことでも意見を言いやすいようにしている。	面会時や運営推進会議で意見を伺っている。3か月毎に、行事や日常の生活場面が窺える写真を載せた季刊誌を家族に送付している。家族の要望で、親族にも送付し好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談やカンファレンスで業務改善について検討を行なっている。働きやすい職場づくり委員の活動を行なっている。	職員は、各種委員会や係に所属している。「働きやすい職場づくり委員」は、職員の気づきや、アイデアなど提案し、業務の質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。面談は直属の上司以外とも可能となっており相談が可能である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修だけでなく外部の研修を受けれるように勤務調整を図っている。今年度はリーダー研修1名、実践者研修1名受講できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同の委員会、研修、社内メール等を通して交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に可能な限りの情報収集に努め、本人とも面談の上で受け入れるようにしている。本人の意向をケアプランに落とし込み、職員間で情報共有を図ってサービスを提供し安心に繋がるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族の思い、意向を確認し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に収集した情報を基に初期ケアプランを作成。入居後も随時ケアプランを更新し、状態に応じたサービスの提供となるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援者ではなく、共同生活者としての視点を持ち、可能な家事はできるだけ行ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報共有を図り、意向を確認しながら相談をしたり、受診同行等の協力依頼を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は予約なしでいつでも可能となっている。	面会の制限もなく、友人・知人・家族の姿が見られるようになっている。家族支援で法事や墓参りなど出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事活動をしてもらったり、レクリエーションを通してコミュニケーションを図ってもらう。会話の仲介等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも電話をくれたり、来訪されても大丈夫な事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人から思いを聞き出せるように努め、生活歴やご家族からの情報も参考に意向の把握に努めている。介護記録のつぶやきからも思いがくみ取れている。	日々のかかわりの中で、本人のつぶやきを介護記録に記し、家族や職員間でも情報を共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自の情報収集シートを用いて情報の把握に努めている。足りない情報は随時、本人やご家族から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや情報共有を図っている。連絡ノートを用いて、全職員への周知を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意向を確認し居室担当者と計画作成担当でケアプランを作成。全職員で原案を確認してからご家族様に説明し、同意を得ている。医師や栄養士、リハビリ等の専門職の意見も取り入れている。	本人と家族、医師や看護師等の意見を反映させて、居室担当者と計画作成担当で、ケアプランを作成し全職員で確認してから家族への説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	紙面の介護記録やパソコンの介護記録ソフト、連絡ノート等を用いて情報共有を図りケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	NPO団体やサロンの利用等を行っていききたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やウエスの会に地域住民をお誘いし、交流を図っている。ボランティアを受け入れ、バイオリンの演奏会等を実施した。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への通院か訪問診療の利用かを選ぶことが出来る。訪問診療や往診時は職員が付き添い状態を伝えて適切な医療が受けられるようにしている。	利用者全員が月2回、24時間体制の系列協力医による訪問診療を受けている。また、専門外来への受診は家族対応が基本で有るが、困難な場合は職員が支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師の来訪があり情報共有、相談を行なっている。来訪時以外でも相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書を作成し、口頭でも情報提供を行なっている。入院中も情報共有に努め、退院可能時はいつでも受け入れられるようにしている。入退院時の送迎は可能な限り協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師を交え、入居時に看取りに関する説明と意向確認を実施している。重度化したときには再度、説明と意向確認を行なっている。	入居時に、医師・看護師を交え重度化や看取りにおける指針を説明し同意を得ると共に、終末期への意向を確認している。職員は、看取り研修で理解を深め、各関係機関とも連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の振り返りや反省を実施。より良い対応となるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中想定、夜間想定、水害想定で年3回実施。訓練に参加できなかった職員にも訓練内容を周知している。地域住民にも災害時の協力を依頼している。	運営推進会議の中で、日中、夜間想定避難訓練を実施し、推進委員から意見等得ている。また、今年度2月に自然災害を想定した避難訓練の実施を予定している。	予定の自然災害の避難訓練の実施と共に、入浴時や排泄時などの場面を想定した避難訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の申し送り時に標語の確認をし、注意を促している。接遇の委員会を開催し研修も実施している。	申し送り時には、利用者個人名ではなく、部屋の番号などで示し、個人記録などは事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にチョイスの機会を作り、自己決定の尊重を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるがその人のペースや希望を尊重し、延食対応や入浴日の変更等も行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を希望する時は職員見守りのもと化粧をしてもらったり、自分で身だしなみを整えられない人には職員が支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁の具材を一緒に考えたり、下膳や食器拭き等と一緒にやっている。時々の行事に合わせた食事や誕生日には本人の好むものの提供を行なっている。	ご飯と味噌汁は用意しているが、副食は業者から届き、個々の形態で提供している。誕生日にはケーキと好みの食事でお祝いしている。今年収穫したさつまいもは、さつまいもご飯など調理して食卓に並んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士とSTのの助言を受けて、食事提供量や食事形態の変更、とろみの有無などを調整。適切な栄養、水分が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じた支援を行なっている。歯間ブラシやスポンジブラシの使用もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め、失禁を減らし、できるだけトイレで排泄できるように誘導している。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしながら支援に取り組んでいる。布下着や紙パンツ、パッド交換など状況に合わせて使用している。状態により、ポータブルトイレ使用やベッド上での支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態に合わせ、冷乳やヤクルトの提供、運動の促し、腹部の温め等を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴の機会を提供。体調や希望に合わせて時間や日にちを変更している。入浴剤を使用し、香りや色を楽しんでもらっている。	週2回を目安に、同性介助、温度、好み入浴剤などの要望を取り入れ、入浴支援をしている。また、体調や希望に応じて足湯をしながらのシャワー浴や、清拭で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動的に過ごし、昼夜逆転を防げるように取り組んでいる。その人の状態に合わせて適時休憩を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は健康ファイルだけでなく連絡ノートにも記入し、薬変更後の変化があれば介護記録に残すように周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を積極的に依頼するようにしている。コーヒー等の嗜好品の提供や習字等の好みの活動を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は外気浴や近隣の散歩を実施。希望時、ご家族の家へ本人の送迎を実施した。	天気が良い日は、散歩、日光浴をしたり、お花見のドライブに出かける支援をしている。家族の協力で、法要やお墓参りへ出かける利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりお金を所持している人が数名いる。使用はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族が希望時に電話やオンライン面会が可能である。手紙を出す支援もできている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節に応じた飾りつけがされている。温度や湿度に配慮し、換気も実施している。	共用空間の壁には利用者と一緒に作った季節の作品などが飾られ、清潔でゆったりしており、温度や湿度の配慮もされ、居心地よく生活できる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は一人一人が心地よく過ごせるように配慮している。周りの人と談笑されている事も多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を居室に設置したり、ご家族の写真を飾るなど思い思いの空間となっている。	居室には、暖房、照明、カーテンが備えられ、本人や家族と相談し、馴染みの家具や好みの本、写真やCDラジカセ、仏壇などを持参して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札が付いており、自分の部屋がわかりやすくなっている。トイレにも張り紙がしてある。		